

## TPP 通信 NO. 3:

### <TPP 協定：第 11 回交渉会合の概要>

#### (3月14日内閣官房公表)

##### (A) 会合及び交渉の全体像

3月1日から9日まで、オーストラリア（メルボルン）で開催、交渉参加9カ国から500人を超える交渉担当者の参加があった。

##### (B) 交渉会合の成果

協定の妥結に向け順調に進んでいることを強調、ほぼ全ての分野について議論が行われ進展があった。

##### (C) 新規交渉参加国の扱い

日本、メキシコ、カナダ3カ国の関心を歓迎、すでに交渉参加国はこれら3カ国と交渉参加に関する準備状況について話し合うため二国間の協議を開始した。

しかしながら・・・

#### (3月22日政府公表)

関税撤廃の分野では、「当初見込みより交渉が遅れている」、「全ての参加国による共通の交渉は始まっておらず、二国間の交渉が続いている。本格的な議論を行う状況にはない」などと報道された。

#### (公表後の主な報道)

交渉の遅れを受けて

- : 日本が早期に交渉に参加すれば、ルール作りに関わる余地がある。
- : 日本にとってのコメなどのセンシティブ品目「例外」扱いが設けられる可能性がある。

TPP交渉への参加が早くても今夏とされる日本にとって、交渉の遅れは望ましいシナリオと捉える声も聞かれます。

### <日本のTPP参加交渉に向けた今後の日程>

3月～4月	: 米国、豪州、NZとの事前協議
4月～5月	: 交渉参加の国内合意を得るための議論
初夏	: 日本の交渉参加の目標時期
11月	: 米国大統領選
年内	: 交渉国による実質合意の目標時期

\*交渉の遅れにより、現実的な妥協時期の見通しは大幅に遅れる可能性も出てきました。

### <地域シンポジウムについて>

政府後援のシンポジウムが25日、札幌市を最後に全国9ヶ所の日程を終えた。交渉参加で懸念される問題として特に農業の問題が多く取り上げられ、参加者からは

- ・ 「農業衰退への懸念」
- ・ 「どの農産物にどのくらいの影響が予想されるのか？」

など説明を求めるのに対し、政府は具体的説明にはほとんど触れず、参加者からは不満の声が少なくなかった。

### <今後の展開について>

9カ国については着々と交渉は進めていますが、意見の隔たりは大きいようです。また、交渉の中身は必ずしもはっきりしません。政府はTPP参加姿勢を明確にしたうえで踏み込んだ説明をすべきでしょう。ただし、目下の国内における最優先課題は消費増税。TPPで新たな火種を抱えたくないことも背景にはありそうです。

### <その他>

#### (新聞報道より)

お米について

飲食店などの低価格志向が強くなり、米国産、豪州産、中国産などの輸入米を取り扱う外食店も珍しくなくなりました。ネット販売やスーパーの店頭という表舞台にも登場し、どれも評判は良いようです。TPPの本格交渉を前に国産米への値下げ圧力は徐々に強まる気配です。

## <参考資料として>

### EPA 交渉の状況（平成 24 年 3 月現在）

1. 発効済み（13 カ国・地域との EPA が発効済み）
  - ・ 日・シンガポール経済連携協定（2002 年 11 月発効）
  - ・ 日・メキシコ経済連携協定（2005 年 4 月発効）
  - ・ 日・マレーシア経済連携協定（2006 年 7 月発効）
  - ・ 日・チリ経済連携協定（2007 年 9 月発効）
  - ・ 日・タイ経済連携協定（2007 年 11 月発効）
  - ・ 日・インドネシア経済連携協定（2008 年 7 月発効）
  - ・ 日・ブルネイ経済連携協定（2008 年 7 月発効）
  - ・ 日・ASEAN 包括経済連携協定（2008 年 12 月発効）
  - ・ 日・フィリピン経済連携協定（2008 年 12 月発効）
  - ・ 日・スイス経済連携協定（2009 年 9 月発効）
  - ・ 日・ベトナム経済連携協定（2009 年 10 月発効）
  - ・ 日・インド経済連携協定（2011 年 8 月発効）
  - ・ 日・ペルー経済連携協定（2012 年 3 月発効）
  
2. 交渉中（3 カ国・地域と交渉中）
  - ・ 韓国、オーストラリア、GCC（湾岸協力理事会－アラブ首長国連邦、オマーン、カタール、クウェート、サウジアラビア、バーレーン）

以 上